

2019年度 強化育成事業
FID 男子日本代表チーム第2次強化合宿
FID 女子日本代表チーム第2次強化合宿
実施報告書



(一社) 日本 FID バスケットボール連盟

2019年度 FID 男子・女子日本代表チーム 第2次強化合宿 報告

【事業概要】

目的:本年10月にオーストラリアで開催される Inas グローバルゲームスでメダル獲得を目指し、個人スキルの向上と共に実践形式の中でチーム力強化に努める

参加人数:男子選手14名、女子選手12名、スタッフ17名 /計43名

実施会場:株式会社デンソー安城製作所健保体育館 〒446-8511 愛知県安城市里町長根 2-1

宿泊会場:デンソー安城荘 電装会館 〒446-0072 愛知県安城市住吉町 6-4-1

事業日程:

月日	時間	内容	
		男子	女子
7/12(金)	20:00	宿舎集合	宿舎集合
7/13(土)	7:30	朝食	朝食
	9:00	全体ミーティング	全体ミーティング
	9:15	AM 練習開始	AM 練習開始
	12:00	AM 練習終了・昼食	AM 練習終了・昼食
	14:00	PM 練習開始	PM 練習開始
	17:00	PM 練習終了	PM 練習終了
	19:00	夕食	夕食
7/14(日)	7:30	朝食	朝食
	9:00	全体ミーティング	全体ミーティング
	9:15	AM 練習開始	AM 練習開始
	12:00	AM 練習終了・昼食	AM 練習終了・昼食
	14:00	PM 練習開始	PM 練習開始
	17:00	PM 練習終了	PM 練習終了
	19:00	夕食	夕食
7/15(月)	7:30	朝食	朝食
	9:00	AM 練習開始	AM 練習開始
	12:00	AM 練習終了・昼食	AM 練習終了・昼食
	13:30	全体ミーティング・解散	全体ミーティング・解散

事業参加者:

<コーチ・スタッフ>

役職	氏名	所属
男子・女子代表チーム総括	小嶋 隆司	一般社団法人 日本FID バasketボール連盟
男子代表チームヘッドコーチ	小川 直樹	一般社団法人 日本FID バasketボール連盟
男子代表チームコーチ	津曲 栄智	一般社団法人 日本FID バasketボール連盟
男子代表チームコーチ	谷口 英謙	一般社団法人 日本FID バasketボール連盟

男子代表チームコーチ	大野 照明	一般社団法人 日本FID バスケットボール連盟
男子代表チームコーチ	小川 裕樹	一般社団法人 日本FID バスケットボール連盟
女子代表チームHコーチ	一松 倫子	一般社団法人 日本FID バスケットボール連盟
女子代表チームコーチ	花輪 希美圭	一般社団法人 日本FID バスケットボール連盟
代表チームトレーナー	片岡 久子	一般社団法人 日本FID バスケットボール連盟
代表チームサポートスタッフ	矢坂 太一	一般社団法人 日本FID バスケットボール連盟
代表チームサポートスタッフ	大沼 弘法	一般社団法人 日本FID バスケットボール連盟
代表チームサポートスタッフ	藤井 正和	一般社団法人 日本FID バスケットボール連盟
代表チームサポートスタッフ	氣田 陽介	一般社団法人 日本FID バスケットボール連盟
代表チームサポートスタッフ	関 圭子	一般社団法人 日本FID バスケットボール連盟
代表チームサポートスタッフ	原 美子	一般社団法人 日本FID バスケットボール連盟
代表チームサポートスタッフ	岩崎 英子	一般社団法人 日本FID バスケットボール連盟
代表チームサポートスタッフ	金塚 敏行	一般社団法人 日本FID バスケットボール連盟

<男子選手>

氏名	Age	P	身長 (cm)	体重 (kg)	所属	所属クラブ
高橋 一輝	22	SF	182.0	68.0	三陽工業(株)	つばさクラブ
高山 晃	28	PF	182.0	85.0	(株)いなげや横浜西が丘店	メイジャーズ
津恵 祥平	38	SG	182.0	75.0	日本物流センター(株)	メイジャーズ
柳澤波生大	19	SF	183.0	78.0	(株)CIJ ネクスト	TAMA OTP
渡辺 稜	20	PG	178.0	70.0	(株)ヴィクトリアイオンモール武蔵村山店	TAMA OTP
川口 司	19	SF	182.0	72.0	ASKUL LOGIST(株)	Hornets
今村 友紀	25	PF	182.0	82.0	(株)富士通	TAMA OTP
渡辺 翔平	23	SG	170.0	58.0	特別養護老人ホームここやか	新潟ファイジングサンズ
高木 昂	26	SF	182.0	80.0	横浜市資源循環公社	メイジャーズ
岡庭ベドロカロス龍之介	18	C	196.0	80.0	豊田自動織機(株)	Green Whales
末永 健翔	18	SG	178.0	63.0	福岡リゾート&スポーツ専門学校	HEROES
林 和叡	18	PG	170.0	60.0	愛知製鋼(株)	Green Whales
平安山佳大	16	SG	178.0	68.0	横浜国立大学二ツ橋高等特別支援学校	二ツ橋高等特支学校
神尾 剛史	17	C	185.0	85.0	横浜国立大学日野中央高等特別支援学校	日野中央高等特支学校

<女子選手>

氏名	Age	P	身長 (cm)	体重 (kg)	所属	所属クラブ
佐川 美奈	17	PG	157.0	53.0	神奈川県立横浜明朋高等学校	メイジャーズ
角田 マサコ	21	PF	163.0	68.0	(株)パソナハートフル	つばさクラブ
子安 みお	20	SG	160.0	50.0	(株)パソナハートフル	つばさクラブ
坂本 七海	20	C	173.0	65.0	(株)LEOC	つばさクラブ
青柳 唯	20	SG	159.0	57.0	グンゼ物流(株)	山梨ドリームクラブ
白川原 飛鳥	25	SF	162.0	52.0	日総びゅあ(株)	藤沢ウィング
岸 カイラ	19	SG	157.0	58.0	第一三共ハピネス(株)	藤沢ウィング

吉長 美月	19	C	170.0	68.0	(株)三宝	KAAC-G
鈴木 美和	18	PG	155.0	45.0	花椿ファクトリー(株)	つばさクラブ
白井 愛美	18	PG	150.0	46.0	第一三共ハピネス(株)	メイジャーズ
加藤 桃子	20	PF	172.0	70.0	(株)東海理化	豊田クラブ
嵯峨 麗奈	18	SG	157.0	54.0	東京都立永福学園	永福学園



【男子総括】

本年10月にオーストラリア・ブリスベンにて開催される第5回 Inas グローバルゲームズでメダルを獲得するために、過去2年間チーム強化を実施してきたが、今合宿は大会に派遣をするメンバーの最終選考会という位置づけで7月13日から15日に渡り、緊張感のある充実した内容で合宿が進められた。

ここ数年、若手選手の著しい成長からチーム内に競争意識が生まれ、チーム内に活気が出てきた。若手からベテラン選手まで年齢層が幅広いが、互いに切磋琢磨することは非常に良いことである。

今回初めて選手たち自らオフェンスのナンバープレイを考案し、スタッフに提案するという場面があった。私は20年間代表チームで指導をしているが、そのようなことは初めてである。今まではコーチから与えられたものを少しずつ自分たちに合うようにマイナーチェンジすることはあったが、自分たちでアクションを起こしたことに高い評価を与えたい。但し、ガードの選手はナンバープレイに固執する傾向にあり、折角アウトナンバーで攻めることが出来るのに判断を誤る場面が多々生じた。やはり臨機応変という訳にはいかず、拘らずにまずは自分の眼で判断することを伝えた。

現在の男子チームに関してはここ数年「速い展開のバスケットボール」の更なる追及が基本テーマであるので、ディフェンスを頑張り、ディフェンスリバウンドから速くフロントコートまでボールを運び、自分たちの条件の良いシチュエーションでシュートするということが求められている。また、積極的にリングにアタックすることが課題になっており、ディフェンスの反応次第でセカンドチャンスが生まれており、複数の選手のコンビネーション(準備と動作)が必要となる。

今回も極力分解練習を少なくし、実戦形式を多く取り入れたメニューとした。5対5の中で何が問題であるのか、それを解決するためにどうすればよいのかという部分を分解練習で補った。選手も理解度には個人差があるため、全員が理解して臨むということは現実的に厳しい部分がある。選手によっては言葉を変えながら説明するため、どうしても時間を要する。

ID 選手を指導する中で一番難しい部分であり、何事にも優先順位があることを理解させなければならない。能力の高い選手が多いだけに、シンプルに考えられるよう、今後も選手にアドバイスを送ってきたい。

今合宿では渡辺(稜)や柳澤といった年代的には若いのが、リーダーシップを発揮できる選手や、津恵、高木といった経験豊富のベテラン選手が牽引し、チームをまとめ上げた。特に津恵、高木は過去、代表チームが環境的に恵まれない時代から選手として活動しているため、現在のように恵まれた環境に対し、毎回感謝の気持ちを持ちながらプレイしている。言葉は少ないが、自分の行動でアピールする姿は若い選手の良きお手本となる。代表チームではこのように人間形成の部分も非常に重要である。チーム、個人としての競技力向上も必要であるが、人として競技を通じ、何を学び、どのように社会の中で生きていくのかを共に考えていくのが、この代表チームの現場の使命であり、また価値であると考えている。

毎年、代表チームの第2次強化合宿に関しては、株式会社デンソー安城製作所様の絶大なるご支援を賜り実施している。今回で21年目を迎え、バスケットボールにひたすら打ち込める環境をご提供頂いたことにチームを代表して心より感謝を申し上げたい。合宿期間中ご多忙にも関わらず、元会長の石丸様、大村安城製作所長様にチームへ激励の言葉を頂戴した。また社員の方々も休みを返上し、チームのために心温まるサポートをして頂いた。我々としては結果で恩返しをするしかなく、このように多くの方々からサポートを受けながら活動ができていくことを決して忘れることなく、感謝の気持ちを忘れずに今後も更に精進していく所存にある。

■男子代表チーム練習メニュー

DATE	TIME	SUBJECT					
7/13	9:00	全体ミーティング (男女合同)					
	9:20	W-up					
	9:35	Ball handling					
	9:45	Shooting drill					
	10:00	break drill 3line, 2on1, 3on2, 3on3					
	10:15	2men situation P&R, P&P					
	10:40	5on5 (Half coat) Of導入					
	11:10	5on5 (Half coat) Df MtoM, zone					
	11:40	training					
	12:10	AM 終了					
	14:00	W-up					
	14:15	Position skill up					
	14:40	Shell defence (4on4)					
	14:40	5on5 (half coat) (down back)					
	16:30	training					
17:00	PM 終了						
7/14	9:00	W-up					
	9:15	training					
	9:45	3men 5ball ※3 min 60 make					
	10:00	break drill 3line, 2on1, 3on2, 3on3					
	10:20	5on5 (Half coat) Of導入					
	10:50	5on5 (Half coat) Df MtoM, zone					
	11:20	5on5 (half coat) (down back)					
	12:00	AM 終了					
	14:00	Shooting Drill					
	14:15	Position skill up					
	14:30	Shell defence (4on4)					
	14:45	5on5 (zone press)					
	16:30	training					
17:00	PM 終了						
7/15	9:00	W-up + training					
	9:30	3men 5ball ※3 min 60 make					
	9:40	break drill 3line, 2on1, 3on2, 3on3					
	10:00	Shell defence (4on4)					
	12:00	AM 終了					



【所見・課題】

スタートでプレイした渡辺(稜)、末永、高木、柳澤と津恵まではコーチ陣が求めているプレイを理解し表現できていたが、その他メンバーとでは理解力含めかなりの差がある。

選手	コメント
渡辺(稜)	チームを引っ張っていきこうと、積極的に声を出していた。プレイ面では昨年から比べシュートフォームが安定してきたので確率アップを期待したい。また1番ポジションとして、パスの正確性、試合の流れを読む力が今後必要になってくる。
末永	能力が高いのでまだその部分任せのプレイが多い。アウトサイドシュートに波があるので安定を期待したい。2番ポジションではあるが、得点力のある1番での起用も良いかと思う。
高木	経験があり、インサイド、アウトサイドどちらもできる選手なのでコーチ側からすると貴重である。
柳澤	クイックネスでプレイするのではなく、ボディバランスの良さを活かし、ドライブでの得点、また、アウトサイドのシュートが一番安定しており、チームのポイントゲッターである。ディフェンス面ではコンタクトが苦手ですクリーンにかかりやすい事が課題である。
津恵	大ベテランで、コートの中のコーチであり、地味なプレイをこつこつと確実にプレイするチームの安定剤である。
岡庭	理解するには時間を要するが、体格を活かし所々で良いプレイが出ており、5番ポジションのスタートとして戦力となっている。フックシュートなどペイントエリアでのスキルアップが課題。
林	ポイントガードとしてボールキープ力アップが必要。
渡辺(翔)	2番ポジションとして、ドライブは良いものがあるが、アウトサイドのシュートの確率アップが課題。
高橋	身体能力はあるが体の線が細く、メンタル的にも強さが必要。
高山	今までインサイドの中心であったが、体力がかなり落ちてきた。インサイドの控えとして起用となる。
川口	脚力がありシュートの安定性が出てくれば十分戦力となる。
今村	元気があり良く声を出して頑張っており、今後のスキルアップを期待したい。
平安山	アウトサイドのシュート確率アップが課題。
神尾	体格、強さはあるが、足の使い方を修正する必要がある。特にトランジションディフェンス。

能力プラス、理解力がある選手が主力となっており、ブロック選抜の平塚、秋元、小中あたりを早めにナショナルメンバーでプレイさせると良い効果が出るのではと感じる。

今回、スクリーメージの中でチェンジングディフェンスを試したが、スタートメンバーはトラブルなく実践出来ていた。フルコートディフェンスが練習できなかったが、渡辺(稜)、末永、ブロック選抜の平塚など脚力がある選手がいるので次回の合宿時に試してみたい。また、2-3ゾーンだけではなく、3-2ゾーンも試してみる価値はあるかと思う。

最後に、デンソー様には長きに渡りご支援頂き、大変感謝しております。選手、スタッフ含め、感謝の気持ちを忘れずに今後活動して参ります。

FID 男子日本代表チーム
コーチ 谷口 英謙

【所見】

今年度2回目の合宿ということもあり、選手同士は挨拶もほどよく緊張した様子ではなかった。

練習メニューは本番を見据え、セットオフenseとディフェンスのパターンをいくつか準備する内容となった。難易度的には難しいレベルではないが、試合経験の少ない選手たちの戸惑いは謙虚に現れた。特にインサイドプレイヤーの経験は乏しく、アウトサイドと合わせることに時間がかかった。チーム全体として、障害の程度が軽度になっていることは最近の傾向ではあるが、やはり知的の遅れを配慮する場面やプレイはあり、周りのスタッフがそれを感じ、支援する必要がある。

一律の全体支援では理解できないことが多い。同じプレイでも、伝える人が変われば、方向が変われば、アングルが変われば、選手は違うプレイとし認識する傾向がある。例えば「ハイロー」では、健常者は1つのプレイで認識し、使い分けられるが、障がい者の中には、3人の指導者が教え、ハイローする選手が3人いれば、9パターン以上の知識として覚えなければならない選手もいる。そのことを、個々に応じなければならないことが我々には求められる。

1つの目標となる試合が近くなり、召集されるメンバーも固定されれば、覚える人、パターンも限定され、効率のよい練習ができると思う。第3次合宿は、更なる連携プレイ、チームディフェンスを期待したい。

【課題】

- 選手のモチベーション
- ブロック合宿との連携
- チームコンプライアンス
 - ・セットオフense(1-4等)
 - ・ディフェンス(2-3、1-2-1-1等)



FID 男子日本代表チーム
コーチ 大野 照明

【所見】

第1次合宿に引き続き、スクリーンを中心に実践的なメニューを行った。今まで課題であったピック&ロールでのスクリーンのかけ方、インサイドへのボールの供給やシュートの精度などの技術が向上しており、選手たちの成長を感じた。

今回の合宿では、リーダーシップのある選手を中心にコミュニケーションを積極的に取り合う姿が多く見られた。その成果として、選手達からナンバープレイの提案があり、それをコーチ陣と共有し、確認する作業が行われた。動き方を選手が自分たちで考えるようになっていったので、理解がより深まったように感じる。しかし、ナンバープレイをガードがコールするとそのプレイに固執してしまい、ボールを持っている選手が積極性を失ってしまうことや、動き方が違うとプレイが止まってしまうことがあった。状況に応じて最善のプレイを選択できるように伝えていくことが必要だと思う。

スクリーンではファーストチームとセカンドチームに分かれて行った。ファーストチームはアウトサイド、

インサイドのバランスが良く安定したプレイができていた。特に柳澤、末永の得点能力や岡庭のインサイドは目を見張るものがあった。逆にセカンドチームはファーストチームと差があり、チーム全体の底上げが必要であると思われた。この現状から、ブロック合宿で評価の高かった選手を代表合宿へ招集し、競争意識を高めることもよいのではと感じた。

【課題】

- ・チーム力の底上げ
- ・ヘルプディフェンス(3線の選手のポジショニング)
- ・インサイドへのボールの供給
- ・インサイドからのパスアウト
- ・状況に応じたプレイの選択
- ・シュート率の安定



FID 男子日本代表チーム
コーチ 小川 裕樹

【所見】

今年も(株)デンソー安城製作所様に多大なるご協力をいただき、バスケットボールに集中して向き合う充実した強化合宿を実施することができた。

第1次強化合宿に引き続き、小村コーチに参加していただき、加圧トレーニングを練習の一部に組み込み、ハードにトレーニングを実施した。選手は加圧にも慣れ始め、疲労が蓄積する中、渡辺(稜)を中心に積極的に取り組む姿は頼もしさを感じた。

前回の合宿に参加できなかった今村、川口が加わり、今年度の候補選手全員が揃ったが、ここ数年のベストメンバーだと感じている。若手中心ではあるが、津恵、高木等のベテラン選手が非常に良い味を出しており、チームに刺激を与えている。

練習はドリブルドリル、ブレイクドリル、ポジション別スキル、チームオフENSESの導入部分の確認やチームディフェンスを確認し、スクリーメージに繋がった。

ブレイクドリルでスリーメン5ボールを行ったが、集中力が欠け、ターンオーバーが多く、目標値の60本以上決めるという課題がクリアできなかった。選手自身、またチームのマインドコントロールができず、負のスパイラルに陥る。状況を変えようとする選手が誰一人いなかったのは非常に残念である。今年2月のオーストラリア遠征の時から言われ続けてきた課題だが、自分に余裕がなくなると、周りへの気遣いも無くなってしまふ。コーチも妥協せずセット数を重ねていくと、リーダーシップを取るべき渡辺(稜)や柳沢、またベテランの津恵や高木がようやく稼働し始め、状況を打破することができた。後のメンバーはその状況にただ乗っかっているだけで、やらされている感満載であり、その意識を変えていかなければチームのベースアップには繋がらない。

今回、夕食後のミーティングを選手間で行わせたが、選手自身がフォーメーションを考え、自分たちでコートの上でトライし、コーチ陣に提案するという場面があった。現場でこのような状況に携われることができるのはこの上ない幸せであり、選手たちの成長を感じる。コーチ陣と共に細かなところを修正し、フォーメーションをひとつ作り上げた。

スクリーメージはこれまでの1-4と新たにできた2ローで攻め始め、オフENSESPATTERNが多くなってもスタートで起用されている選手たちの困惑が少ないと感じた。しかし、覚えきれていない選手は余裕がなくなっていくのも同時に感じた。第3次合宿までに各個人でノートを見返すなり、努力が必要である。

今回スクリメージを行う中で、何処かのタイミングでのチェンジングディフェンスを仕掛けることはかなり有効であると感じた。第2次合宿ではあまり練習しなかったが、第3次合宿ではディフェンスを強化するために練習を取り入れても良いと感じている。

【課題】

- ・フォーメーションを覚えること及び動きの理解
- ・フォワードのアタックからの周囲の合わせと準備
- ・ゾーンの攻略と理解
- ・チェンジングディフェンス



【女子総括】

2次合宿でのテーマは、これまでの「速いプレイのための早い判断と準備」に、「丁寧にプレイをする」ことを加えた。

パスミスやキャッチミス、イージーシュートなどの基礎的な面でのミスがまだ多く見られるが、技術だけではなくミスに対しての考え方にも意識を高めてほしいと考えている。スタッフからの指摘やアドバイスを選手自身がどれだけ意識してプレイし続け、修正したり習得したりすることができるかは、技術の習得に時間のかかる選手が多い現代表チームに必要なことである。また、「丁寧に」というテーマは、スタッフにも必要であり、チームや選手に必要なことを、各選手に合った伝え方で根気強く指導し、技術に限らず精神面や生活面なども情報共有をしながらチームの質を上げたいと考えている。

前回の合宿では3×3のルールを覚えながらの練習であったが、今回はルールを理解してプレイできる選手が増えており、実践に近い形で練習をすることができた。具体的には、より直線的にゴールを狙うことや、敢えて体をぶつけあうような1対1で果敢に攻め切りゴールまで行く練習を多く取り入れた。接触を嫌う選手もいるが、回数を重ね、徐々に激しく攻めたり、強く踏ん張ったりしてゴール向えるようになった。前回から取り組んでいる速いタイミングでのシュートを意識して打つ選手が増え、良い形で得点できるケースが増えた。守備の面では、強い攻撃力や高さのある選手に対して、ボールを簡単に持たせないことやボックスアウトの仕方など、ボールを持たれる前の勝負にも重点を置いてディフェンス練習を行った。速さに加え強さも出てきているので、より一層ランジションを速くし日本チームの特徴を生かした3×3を展開したい。



■女子代表チーム練習メニュー

DATE	TIME	SUBJECT
7/13	9:20	フリーアップ
	9:30	フットワーク(様々なステップ、上手な体の使い方)
	10:05	ドリブルドリル→2人1組のドリブル、DF付き
	10:35	ディナイDFのドリル
	11:15	シューティングドリル、プレッシャーシューティングからボックスアウト
	12:05	シャトルラン
	14:00	フットワーク(様々なステップ、上手な体の使い方)
	14:25	ドリブルドリル
	14:45	ルーズボールからの1on1
	15:05	12秒1on1(ドリブルなし→ドリブルあり)
	15:25	ハーフコート2on2
	16:00	ハーフコート3on3
	16:30	3人1組のシューティング
	16:45	対面シュート(30本イン)
16:55	クールダウン	
7/14	9:20	フリーアップ
	9:25	フットワーク(様々なステップ、上手な体の使い方)
	9:45	ドリブルドリル
	10:00	OF時の優先順位について(説明)
	10:10	1on1(ドリブルなし→ドリブルあり)
	10:35	ボックスアウトからリバウンド
	11:45	ハーフコート2on2
	14:00	フットワーク(様々なステップ、上手な体の使い方)
	14:40	ドリブルドリル、DFドリル
	15:00	3人組ジャングル(2本イン抜け)
	15:20	ピボット(その場で、DFをずらして抜く)
	16:05	シューティングドリル
	16:20	ハーフコート3on3
17:00	クールダウン	
7/15	9 15	フットワーク(様々なステップ、上手な体の使い方)
	9 32	ドリブルドリル
	9 40	1on1(ドリブルなし)
	9 47	対面シュート(ゴール下 フリースローライン 30本イン)
		シューティングドリル
	10 20	シャトルラン
	10 45	トライアングルパス
	11 05	2on2(3点先取 2分間)
	11 20	フリースロー
	11 30	3on3(5点先取3分間)
11 52	クールダウン	



FID 女子日本代表チーム
コーチ 花輪 希美圭

【所見】

3×3にはだいぶ慣れた様子であり、理解度には差は見られるが全員がおおよそルールを理解してプレイすることができていた。気持ちもしっかりバスケットに向かっている選手が多く、全体的には良い雰囲気であったが、気持ちの継続という面では課題も感じられた。

今回は体の上手な使い方についてのドリルに繰り返し取り組んだが、コート上では良いパフォーマンスを見せている選手でも、実践するとできていない様子が見られた。より効率的に、より楽に動くために必要であることも繰り返し説明があったが、その必要性を理解し、次の合宿までに取り組んでくることを期待したい。

練習では、1対1でゴールに向かってまっすぐアタックするというところに取り組んだ。全員がゴールに向かってアタックするという意識をもつことができ、その後の3×3でも積極的に攻めに行く様子が見られた。特にガード、フォワードの選手はスピードもあり、ゴールまでもっていける強さもある。フィニッシュの確率の低さは課題になるが、1対1の強さは日本チームの武器になるのではないかと感じられた。

【課題】

- ・1対1からのフィニッシュの確率向上。ノーマークで決めることはもちろんであるが、多少ディフェンがついてきても力強くゴールまでもっていき、決めきることができることと良い。1対1を繰り返し行い、普段のシューティングドリルにもダミーでディフェンスがついた状態でシュートを打つように取り組む。
- ・大会のメンバーが決定した場合、そのメンバーでチームを組んで3×3に取り組む機会の確保が必要か。合宿という形ではなくても、どこかのチームに協力いただき、そのメンバーでそのチームの練習に参加したりできると良い。

FID 女子日本代表チーム
サポートスタッフ 岩崎 英子

【所見】

ドリブルドリルや3×3のルールの復習等、この合宿への参加に向けて事前準備をしているなど感じる選手が多くいた。前回と比較し、簡単なプレイでゴールを決めたり、各選手の良いところを生かしてゴールを決めたりするプレイが多く見られた。そして、ボールを持ったらどうするかという優先順位を考えて行うプレイや、次の展開を意識してパスを出すことができていた選手もいた。

この3日間で互いのプレイを見合い、一緒に練習をする中で、他選手の技術を学び実践している選手もいて、選手同士互いに高め合っていると感じた。また、選手同士で練習内容の確認をや、注意する点について復習をしたりする姿が見られ、1次合宿と比べ、チームとしての士気が上がっているように感じた。

【課題及び今後の対応】

- ・常に全力でプレイをしているので、緩急のあるプレイが少ない。
- ・攻め方のバリエーションが少ないので、単調なプレイをすることが多い。
- ・1on1の強化。(ボールを持った時の判断の優先順位等)
- ・女子のグループラインで練習の様子を動画で送り、自分のプレイや他選手のプレイを見返すことができるようにする。

FID 日本代表チームサポート企業・団体・サポーター様

株式会社 デンソー様

株式会社 CIJ ネクスト様

株式会社誠行社様 フィットネス・ラボ P2M 様 株式会社村井工業様

有限会社中村製作所様 Gio Code 株式会社様 株式会社笹森様

石丸典生様 株式会社スマイルワン様

杉本弘毅様 野崎龍華様 岩村浩人様 大野敦史様 鶴谷伸之様 和田洋幸様 榊原英治様
伊勢 徹様 川口正高様 川口美樹様 中島正雄様 古川雅司様 高橋 徹様 蛭川 稔様
あんどうたかお様 大村亜理様 中山克良様 富田順也様 笹森勝義様 篠田東吾様 梅瀬 豊様
森本和朗様 小林千夏様 竹ノ内由紀子様 角田正博様 大塚一義様 田中 光様 辻元由美様
小玉隆史様 鶴岡将史様 小森健太郎様 関 信介様 足立哲哉様 南原勝一様

多大なるご支援・ご声援を賜り心から感謝申し上げます